



## 2022年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2021年11月10日

上場会社名 株式会社YU-WA Creation Holdings (旧会社名 京都きもの友禅株式会社) 上場取引所 東  
 コード番号 7615 URL <https://www.yuwa-holdings.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 服部 雅親  
 問合せ先責任者 (役職名) 経営管理部長 (氏名) 弓削 佳美 (TEL) 03-3639-9191  
 四半期報告書提出予定日 2021年11月12日 配当支払開始予定日 2021年11月30日  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家、アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

## 1. 2022年3月期第2四半期の連結業績(2021年4月1日～2021年9月30日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第2四半期	3,862	22.3	△234	—	△213	—	△223	—
2021年3月期第2四半期	3,157	△44.6	△168	—	△148	—	△117	—

(注) 包括利益 2022年3月期第2四半期 △223百万円(—%) 2021年3月期第2四半期 △97百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年3月期第2四半期	△18.90	—
2021年3月期第2四半期	△9.78	—

(注) 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、2022年3月期第2四半期に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっております。

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2022年3月期第2四半期	12,164	4,786	39.4	404.25
2021年3月期	12,207	5,330	43.7	451.81

(参考) 自己資本 2022年3月期第2四半期 4,786百万円 2021年3月期 5,330百万円

(注) 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、2022年3月期第2四半期に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっております。

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期	—	3.00	—	3.00	6.00
2022年3月期	—	3.00	—	—	—
2022年3月期(予想)	—	—	—	3.00	6.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2022年3月期の連結業績予想(2021年4月1日～2022年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	8,630	12.5	102	62.0	117	18.0	68	△12.2	5.75

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

(注) 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、上記の連結業績予想は、当該会計基準等を適用した後の数値となっております。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)  
 新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料10ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2022年3月期2Q	15,498,200株	2021年3月期	15,498,200株
② 期末自己株式数	2022年3月期2Q	3,657,539株	2021年3月期	3,700,039株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2022年3月期2Q	11,806,753株	2021年3月期2Q	11,978,531株

(注) 期末自己株式数には、「株式給付型E S O P」が保有する当社株式(2022年3月期2Q 351,300株、2021年3月期 351,300株)が含まれております。また、「株式給付型E S O P」が保有する当社株式(2022年3月期2Q 351,300株、2021年3月期2Q 72,947株)を、期中平均株式数の計算において控除する自己株式数に含めております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)3ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	P. 2
(1) 経営成績に関する説明 .....	P. 2
(2) 財政状態に関する説明 .....	P. 2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	P. 3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	P. 4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	P. 4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	P. 6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	P. 8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	P. 10
(継続企業の前提に関する注記) .....	P. 10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	P. 10
(会計方針の変更) .....	P. 10
(セグメント情報) .....	P. 11
(重要な後発事象) .....	P. 12

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症のワクチン接種が進んでいるものの、変異ウイルスの感染拡大の影響により緊急事態宣言の適用地域が拡大されるなど、経済活動の停滞が長期化し、先行きが不透明な状況で推移いたしました。

このような環境の中、当社グループでは、感染拡大の抑制に必要な対策、対応を実施しながら営業活動を行ってまいりました。当社グループにおける各事業部門別の状況は次のとおりであります。

なお、第1四半期連結会計期間より、報告セグメントの区分を変更いたしました。そのため、各セグメントの前年同期比較および分析は、変更後の区分に基づいております。

また、第1四半期連結会計期間より、「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を適用しています。詳細は、「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」に記載のとおりです。

## 〔和装店舗運営事業〕

「振袖」販売およびレンタルについては、前期は4月上旬から5月下旬まで全店臨時休業していたものの、今期は緊急事態宣言発令期間が長期化したことと、集客のデジタルシフトによる効果が十分に出せていないこともあり、夏の繁忙期における集客に苦戦したため、受注高は前年同期比5.3%減となりました。また、既存顧客を対象とした「一般呉服」等の受注高については、感染拡大防止に努めながら積極的に催事を行い、堅調に推移したため、前年同期比46.1%増となりました。

以上により、和装店舗運営事業の売上高(出荷高)については、収益認識会計基準等の適用の影響も加味し、21.2%増の3,804百万円となりました。

利益面においては、売上総利益率は収益認識会計基準等の適用を加味した結果、前年同期と比べ0.4ポイント改善し62.7%となりました。販売費及び一般管理費については、中期計画策定のもと前期に引き続き構造改革を進めており、特に広告宣伝費比率を引き下げつつ売上高を確保していく体制への変更を進めております。前述のとおり売上高は増加したものの、前年同期は臨時休業期間中に発生した費用(人件費、店舗家賃、催事中止費用等)を特別損失として計上していたこともあり、対売上高比は1.7ポイント上昇いたしました。この結果、和装店舗運営事業の営業利益は前年同期比20.4%減の88百万円となりました。

## 〔その他事業〕

その他事業については、写真スタジオ事業、EC事業を中心に売上高拡大に取り組み、売上高は前年同期比221.4%増の57百万円となりました。一方、新規事業への先行投資を行ったこともあり、営業損失は54百万円(前年同期は営業利益2百万円)となりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の連結業績は、売上高は前年同期比22.3%増の3,862百万円、営業損失は234百万円(前年同期は営業損失168百万円)、経常損失は213百万円(同 経常損失148百万円)、親会社株主に帰属する四半期純損失は223百万円(同 親会社株主に帰属する四半期純損失117百万円)となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

## (資産)

流動資産は、前連結会計年度末に比べて0.5%増加し、9,456百万円となりました。これは、収益認識会計基準等の適用に伴い、割賦売掛金を売掛金に含めて記載することとしたため、売掛金が2,881百万円増加し、割賦売掛金が2,808百万円減少したこと、また、商品及び製品が47百万円増加し、現金及び預金が150百万円減少したことなどによりります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて3.3%減少し、2,707百万円となりました。これは、有形固定資産が72百万円増加し、差入保証金が150百万円減少したことなどによりります。

この結果、総資産は、前連結会計年度末に比べて0.4%減少し、12,164百万円となりました。

(負債)

流動負債は、前連結会計年度末に比べて7.3%増加し、7,081百万円となりました。これは、収益認識会計基準等の適用に伴い、契約負債が423百万円、前受収益が510百万円それぞれ増加し、割賦未実現利益が449百万円、販売促進引当金が103百万円それぞれ減少したことなどによります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて6.6%増加し、296百万円となりました。

この結果、負債合計は、前連結会計年度末に比べて7.3%増加し、7,377百万円となりました。

(純資産)

純資産合計は、前連結会計年度末に比べて10.2%減少し、4,786百万円となりました。これは、収益認識会計基準等の適用に伴い累積的影響額として295百万円の減少を加味したこと等により、利益剰余金が554百万円減少したことなどによります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

第2四半期連結累計期間の和装店舗運営事業において、緊急事態宣言の長期化による影響及び振袖集客のデジタルシフトによる効果が十分に出せていないことを主要因として、売上及び各段階利益において当初計画を下回って推移しております。

第3四半期以降、緊急事態宣言の解除や行動規制の緩和に伴い、お客様のご来場及び受注金額の回復傾向が見られることや、特に第2四半期まで課題であった振袖来店客数増加のためのプロモーション企画強化や呉服催事企画の強化を図ることで、第3四半期以降の業績については、当初計画並みの水準を維持出来るものと考えております。

以上の理由から、第2四半期連結累計期間における当初計画と実績との業績未達分を下方修正することとし、本日付で「業績予想の修正に関するお知らせ」を発表しております。

なお、配当予想については当初計画どおり、中間配当金3円、期末配当金3円を計画しております。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	4,280,960	4,130,465
売掛金	91,852	2,973,413
割賦売掛金	2,808,000	—
商品及び製品	1,501,519	1,548,599
原材料及び貯蔵品	32,348	36,956
その他	692,575	767,193
流動資産合計	9,407,256	9,456,629
固定資産		
有形固定資産		
その他(純額)	148,827	221,396
有形固定資産合計	148,827	221,396
無形固定資産	80,440	77,457
投資その他の資産		
投資有価証券	40,095	40,095
差入保証金	1,805,200	1,655,200
敷金及び保証金	709,425	695,883
その他	16,389	17,505
投資その他の資産合計	2,571,109	2,408,683
固定資産合計	2,800,377	2,707,538
資産合計	12,207,633	12,164,167

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	193,778	280,454
短期借入金	1,300,000	1,300,000
リース債務	6,708	9,754
未払法人税等	80,836	38,015
前受金	958,044	1,172,143
預り金	3,008,892	2,942,495
賞与引当金	95,000	84,000
販売促進引当金	103,440	—
割賦未実現利益	449,836	—
前受収益	—	510,637
資産除去債務	20,263	—
契約負債	—	423,316
その他	382,621	320,586
流動負債合計	6,599,422	7,081,403
固定負債		
リース債務	7,631	17,641
繰延税金負債	8,996	—
株式給付引当金	4,995	12,543
資産除去債務	256,052	265,950
固定負債合計	277,675	296,134
負債合計	6,877,097	7,377,537
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,215,949	1,215,949
資本剰余金	1,431,398	1,407,258
利益剰余金	5,748,973	5,194,016
自己株式	△3,065,784	△3,030,594
株主資本合計	5,330,536	4,786,630
純資産合計	5,330,536	4,786,630
負債純資産合計	12,207,633	12,164,167

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)
売上高	3,157,832	3,862,091
売上原価	1,193,074	1,448,481
売上総利益	1,964,757	2,413,609
販売費及び一般管理費	2,132,796	2,647,613
営業損失(△)	△168,038	△234,003
営業外収益		
受取利息	178	93
助成金収入	—	23,144
受取保険金	—	4,300
信販取次手数料	24,229	—
雑収入	5,268	2,295
営業外収益合計	29,676	29,833
営業外費用		
支払利息	9,311	5,937
支払手数料	—	2,000
雑損失	1,326	1,450
営業外費用合計	10,637	9,388
経常損失(△)	△148,999	△213,558
特別利益		
固定資産売却益	781	—
投資有価証券売却益	—	600
助成金収入	195,899	—
会員積立金取崩益	277,954	—
特別利益合計	474,636	600
特別損失		
臨時休業等による損失	376,527	—
和解金	12,550	—
特別損失合計	389,077	—
税金等調整前四半期純損失(△)	△63,440	△212,958
法人税、住民税及び事業税	52,016	16,087
法人税等調整額	1,665	△5,897
法人税等合計	53,681	10,189
四半期純損失(△)	△117,122	△223,148
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△117,122	△223,148

## 四半期連結包括利益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
四半期純損失(△)	△117,122	△223,148
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	20,108	—
その他の包括利益合計	20,108	—
四半期包括利益	△97,014	△223,148
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△97,014	△223,148
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純損失(△)	△63,440	△212,958
減価償却費	38,427	32,354
賞与引当金の増減額(△は減少)	△73,000	△11,000
販売促進引当金の増減額(△は減少)	65,950	△103,440
株式給付引当金の増減額(△は減少)	—	7,548
受取利息及び受取配当金	△178	△93
支払利息	9,311	5,937
投資有価証券売却損益(△は益)	—	△600
有形固定資産売却損益(△は益)	△781	—
助成金収入	△195,899	—
臨時休業等による損失	376,527	—
和解金	12,550	—
売上債権の増減額(△は増加)	305,433	148,785
棚卸資産の増減額(△は増加)	△96,362	△51,688
仕入債務の増減額(△は減少)	167,976	86,676
割賦未実現利益の増減額(△は減少)	△7,793	△449,836
前受収益の増減額(△は減少)	—	510,637
契約負債の増減額(△は減少)	—	127,956
未払消費税等の増減額(△は減少)	△93,748	63,879
預り金の増減額(△は減少)	△336,397	△66,397
その他	△277,882	△230,950
小計	△169,309	△143,188
利息及び配当金の受取額	178	93
利息の支払額	△9,311	△5,937
助成金の受取額	167,199	—
臨時休業等による損失の支払額	△376,527	—
和解金の支払額	△12,550	—
法人税等の支払額	△43,539	△71,429
法人税等の還付額	30,992	53,259
営業活動によるキャッシュ・フロー	△412,866	△167,202
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△84,383	△67,301
有形固定資産の売却による収入	5,888	—
投資有価証券の売却による収入	—	600
敷金の差入による支出	△908	△13,637
敷金の回収による収入	58,762	27,179
貸付けによる支出	—	△300
貸付金の回収による収入	260	75
差入保証金の回収による収入	250,000	150,000
その他	△41,633	△46,110
投資活動によるキャッシュ・フロー	187,986	50,504

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	1,050,000	—
自己株式の取得による支出	△78,013	—
自己株式の処分による収入	77,988	—
配当金の支払額	△36,444	△36,444
その他	△3,132	△3,867
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,010,398	△40,311
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	785,518	△157,009
現金及び現金同等物の期首残高	3,574,791	4,280,960
現金及び現金同等物の四半期末残高	4,360,309	4,123,950

## (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

## (継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

## (株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

## (会計方針の変更)

## (収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。

これにより、代理人取引に係る収益について、従来は総額で収益を認識しておりましたが、顧客への財又はサービスの提供における役割(本人又は代理人)を判断した結果、純額で収益を認識する方法に変更しております。また、従来「成人式当日の着付ヘアメイク特典」について、将来の特典利用に備えるため、販売促進引当金を計上する方法によっておりましたが、「成人式当日の着付ヘアメイク特典」を別個の履行義務として識別し、特典利用まで収益の計上を繰り延べる方法に変更しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。ただし、収益認識会計基準第86項に定める方法を適用し、第1四半期連結会計期間の期首より前までに従前の取扱いに従ってほとんどすべての収益の額を認識した契約に、新たな会計方針を遡及適用しておりません。また、収益認識会計基準第86項また書き(1)に定める方法を適用し、第1四半期連結会計期間の期首より前までに行われた契約変更について、すべての契約変更を反映した後の契約条件に基づき、会計処理を行い、その累積的影響額を第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減しております。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は44,103千円減少し、売上原価は25,078千円減少し、販売費及び一般管理費は65,225千円減少し、営業利益は46,200千円増加し、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ7,049千円増加しております。また、利益剰余金の当期首残高は295,359千円減少しております。

収益認識会計基準等を適用したため、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動負債」に表示していた「割賦未実現利益」は、第1四半期連結会計期間より「前受収益」に含めて表示することとしました。また、「販売促進引当金」は、「契約負債」に含めて表示することとしました。なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度について新たな表示方法により組替えを行っておりません。さらに、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第2四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

## (セグメント情報)

前第2四半期連結累計期間(自2020年4月1日至2020年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	和装店舗運営事業	その他事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	3,139,961	17,871	3,157,832	—	3,157,832
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	3,139,961	17,871	3,157,832	—	3,157,832
セグメント利益 又は損失(△)	111,451	2,052	113,503	△281,542	△168,038

(注) 1 セグメント利益又は損失(△)の調整額△281,542千円は本社管理費であります。

2 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自2021年4月1日至2021年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	和装店舗運営事業	その他事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	3,804,649	57,442	3,862,091	—	3,862,091
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	3,804,649	57,442	3,862,091	—	3,862,091
セグメント利益 又は損失(△)	88,739	△54,977	33,762	△267,766	△234,003

(注) 1 セグメント利益又は損失(△)の調整額△267,766千円は本社管理費であります。

2 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

## 3. 報告セグメントの変更等に関する事項

当社グループは従来、「和装関連事業」とそれに付随する「金融サービス事業」を展開してまいりましたが、2021年3月期より、中長期的な更なる成長のために、新規事業の創出・拡充を推進しており、新規事業として写真スタジオ事業、EC事業を開始してまいりました。さらに、2022年3月期第1四半期にはネイルサロン事業を開始、第2四半期にはオンラインスクール事業を開始しております。また、第1四半期連結会計期間より、事業セグメントの見直しを行い、「金融サービス事業」は和装店舗での商品売上に付随した収益であることから、「和装関連事業」と合わせて店舗別損益を管理することとしました。これに伴い、報告セグメントを従来の「和装関連事業」「金融サービス事業」から、「金融サービス事業」を「和装関連事業」に含めた「和装店舗運営事業」、及び前述の新規事業等を集約した「その他事業」に報告セグメントを変更いたしました。

なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の区分方法により作成したものを記載

しております。

また、会計方針の変更に記載のとおり、第1四半期連結会計期間の期首から収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、事業セグメントの利益又は損失の算定方法を同様に変更しております。

当該変更により、従来の方法に比べて、当第2四半期連結累計期間の「和装店舗運営事業」の売上高は44,103千円減少、セグメント利益は46,200千円増加しております。

### (重要な後発事象)

#### (持株会社体制への移行に伴う会社分割)

当社は、2021年5月10日開催の取締役会決議に基づき、当社の完全子会社である株式会社京都きもの友禅分割準備会社(2021年10月1日付で「京都きもの友禅株式会社」に商号変更。以下「分割準備会社」といいます。)との間で吸収分割契約を締結いたしました。また、2021年6月28日に開催の当社定時株主総会での承認を経て、2021年10月1日付で当社の事業を分割準備会社に承継いたしました。

これに伴い、当社は2021年10月1日付で「株式会社YU-WA Creation Holdings」(呼称：ユーワクリエイションホールディングス)に商号変更し、持株会社体制へ移行いたしました。

#### 1. 会社分割の概要

##### (1) 対象となった事業の内容

和装関連事業及び金融サービス事業

##### (2) 企業結合日

2021年10月1日

##### (3) 企業結合の法的形式

当社を分割会社、分割準備会社を承継会社とする吸収分割

##### (4) 結合後企業の名称

分割会社：株式会社YU-WA Creation Holdings

承継会社：京都きもの友禅株式会社

##### (5) 会社分割の目的

当社グループは、新規事業の創出、次世代の経営者の育成、ガバナンス体制の強化を進め、また、迅速な意思決定が可能となる体制を整えることにより、さらなる企業価値の向上と事業の拡大を目的として持株会社体制に移行することといたしました。

#### 2. 実施した会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 2019年1月16日)及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第10号 2019年1月16日)に基づき、共通支配下の取引として処理しております。